

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	保健福祉部	
	課名	長寿福祉課	
	係名	長寿支援係	
	記入者		電話(内線) 152

1. 事業の概要			
(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	ふれあいセンター事業
		(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体	市
① 事業の区分	主要事業	(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質 一般事業費(ソフト事業) 会計区分 一般会計 財源区分 市単独 予算科目 款 3 項 1 目 9 予算書上の 事業名称 (予算書 82 ページに掲載)
② 施策コード	14102 (総合計画掲載ページ 61 ページ)		
基本目標(政策)	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)		
基本施策	1-4ゆとりをもって暮らせる高齢者福祉の充実(高齢者福祉)		
施策	①高齢者福祉の総合的な推進		
施策内容	2高齢者の生きがいづくり		
(5) 事業期間	開始 年 月から 終了 年 月まで (力年)	(8) 事務分類	自治事務
		根拠法令	結城市生きがいふれあいセンターの設置及び管理に関する条例

2. 事業の目的及び内容	
(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
高齢者	高齢者の介護予防, 健康増進及び生きがいづくりを図る。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
結城市生きがいふれあいセンターの管理運営し, 高齢者のふれあいの場を提供するほか, 介護予防教室の場として活用する。	
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
高齢化が進展するなかで, 元気な高齢者に対する施策が重要となっている。高齢者が生きがいをもって生活することは介護予防につながり, 2025問題を解決するカギとして, こうした元気な高齢者のマンパワーの活用が必要である。	

3. 事業コスト					
行政評価 実施計画	実績内容の評価 検討・改善				
検討・改善内容を反映					
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)		
	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 事務事業費	事業内容				
	需用費	799	1,006		
	役員費	73	75		
	委託料	2,235	2,800		
	使用料及び賃借料	96	93		
	備品購入費	0	38		
	負担金補助及び交付金	8	8		
	合計	3,211	4,020		
財源	国庫支出金 (千円)				
	県支出金 (千円)				
	地方債 (千円)				
	その他特定財源 (千円)	2,000	2,000		
	一般財源 (千円)	1,211	2,020		
	合計 (千円)	3,211	4,020		
	補助・起債制度名	地域福祉基金	地域福祉基金		

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	生きがいふれあいセンター実利用団体数	目標値		60	65	70	75
		実績(見込)値	団体	41			
指標名	生きがいふれあいセンター延べ利用者数	目標値		8,000	8,500	9,000	9,500
		実績(見込)値	人	5,439			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	生きがいふれあいセンター実利用団体数	目標値		60	65	70	75
		実績(見込)値	団体	41			
		達成率		54.7 %	0.0 %		
指標名	生きがいふれあいセンター延べ利用者数	目標値		8,000	8,500	9,000	9,500
		実績(見込)値	人	5,439			
		達成率		57.3 %	0.0 %		

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	高齢者の外出、生きがいづくりの創出は介護予防の観点から非常に重要なため。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	高齢者の健康、生きがいづくりを推進していく市が、高齢者のふれあいの場を提供管理するのが妥当であるため。
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	利用者がある際の施設管理について、シルバー人材センターから管理人を派遣することで高齢者の雇用創出機会が増えているが、利用者の増加に伴い、委託費用も増加しているため。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	利用者の増加に伴い、委託費用が増加しているため。
公平性	受益者の偏り	C	偏りがある	リピーターが多いため。
有効性	成果の向上	A	上がっている	利用者数が増えているため。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	利用者数が増えているため。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

徐々に利用率は上がってきており、高齢者のふれあいの場として生きがいづくり等の活動の場として役立っている。介護予防の観点から活動場所を提供することは重要であるが、利用者の増加に伴い、管理委託費用の増加が懸念される。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

高齢者の課活動の場として引き続き運営、管理するとともに、管理委託料の増加を鑑み、使用料の徴収について検討が必要である。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続 (成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続 (成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	高齢者の方にふれあいの場を提供することは、閉じこもり防止、要介護・要支援への進行防止の観点からも重要である。また、現在、使用料は徴収していないが、コミュニティセンター等との均衡を図るうえでも、使用料徴収、シルバー人材センターへの委託(常時)について検討する。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。